

# RISSHO UNIVERSITY

総合案内 2026

仏教学部

文学部

経済学部

経営学部

法学部

社会福祉学部

地球環境科学部

心理学部

データサイエンス学部

## メッセージ

立正大学は、天正8(1580)年に日蓮宗の教育機関の一つとして、下総(現在の千葉県匝瑳市)に設立された飯高檀林に淵源をもつ由緒ある大学です。明治以降、近代的な学校制度が整備されるなか、大正13(1924)年に立正大学として設立認可を得て、9学部16学科7研究科を擁する総合大学となるまでに発展してきました。

現在、世界は情報通信技術やAIの急激な進歩を背景に、新しい産業革命期に入っていると考えられます。その中で、大学に求められる人材育成の在り方も、当然変化しています。立正大学は世界史的な視野をもって、今後の日本社会、そしてより広く国際社会に貢献していく人材を育成し、大学自体もさまざまな形で社会貢献していきたいと考えています。

立正大学は仏教の教えに根差した「真実の探究」「正義の追求」「平和の願い」を建学の精神、「『モラリスト×エキスパート』を育む。」を学園メッセージとして掲げ、豊かな倫理観と高い専門性を兼ね備えた人材を育てることを目指しています。ここでいう『モラリスト×エキスパート』は「足し算」ではありません。豊かな精神性と専門性を併せ持ち、そのベクトルがより良い方向を向く「掛け算」なのです。答えを急ぐのではなく、持続的に探究する。それこそが立正大学が目指す方向だと思っています。

立正大学は、学生が未来を切り拓く力を育む場、地域社会や国際社会に貢献する知的拠点であり続けます。また仏教の教えにある平和の希求や地球環境を大切にす視点に立ち、持続可能な社会の実現に向けた取組を強化していきます。そして学生一人ひとりが人生の拠り所となる真実を見つけ、明るい未来を拓いていこう、全力でサポートしてまいります。



立正大学長 北村 行伸

## 略沿革

1580	天正 8年	日蓮宗の教育機関として下総国飯高郷(千葉県匝瑳市)に飯高檀林を開設
1872	明治 5年	東京芝二本榎(港区高輪)に小教院(のちに宗教院に改称)を設立【立正大学開校の起点】
1875	明治 8年	飯高檀林を廃止し、宗教院を大教院に改組 学祖・新居日薩が大教院にて開講式を挙
1904	明治 37年	東京府下荏原郡大崎村谷山ヶ丘(品川区大崎)に日蓮宗大学林を設立 小林日董が大学林長(初代)に就任 
1907	明治 40年	日蓮宗大学林を日蓮宗大学に改組
1919	大正 8年	財団法人日蓮宗大学を設立
1924	大正 13年	大学令により立正大学の設立が認可 文学部(宗教学科・哲学科・社会学科・史学科・文学科)、予科、研究科を設置 財団法人日蓮宗大学を財団法人立正大学に改組
1925	大正 14年	日蓮宗大学を立正大学専門部に改称し、宗教科、国語漢文科、歴史地理学科を設置
1947	昭和 22年	文学部に地理学科を設置
1949	昭和 24年	学校教育法による新制大学として認可 第I部[昼間部]に仏教学部(宗学科・仏教学科)、文学部(哲学科・史学科・文学科・社会学科)、第II部[夜間部]に仏教学部(宗学科)、文学部(史学科・文学科・社会学科・地理学科)を設置
1950	昭和 25年	文学部英文学科[第I部、第II部]、経済学部(経済学科)[第I部、第II部]を設置 立正大学短期大学部を設置
1951	昭和 26年	財団法人立正大学を学校法人立正大学学園(立正大学・同短期大学部・立正高等学校・立正中学校)に改組 立正大学専門部を廃止 大学院文学研究科を設置
1952	昭和 27年	石橋湛山、第16代学長に就任 学長在任中に、大蔵大臣、通商産業大臣、第55代内閣総理大臣に就任
1957	昭和 32年	文学部[第I部]に地理学科を設置
1967	昭和 42年	熊谷キャンパスに教養部を設置(熊谷キャンパスの開設) 経営学部(経営学科)を設置

1981	昭和 56年	法学部(法学科)を設置
1986	昭和 61年	文学部英文学科を文学部 英米文学科に改称 
1988	昭和 63年	大学院経済学研究科を設置
1992	平成 4年	開校120周年 
1994	平成 6年	大学院法学研究科を設置
1995	平成 7年	教養部を廃止
1996	平成 8年	社会福祉学部(社会福祉学科、人間福祉学科)を設置
1998	平成 10年	地球環境科学部(環境システム学科、地理学科)、大学院経営学研究科を設置
2000	平成 12年	大学院社会福祉学研究科、大学院地球環境科学研究科を設置
2001	平成 13年	短期大学部を廃止
2002	平成 14年	心理学部(臨床心理学科)を設置 文学部国文学科、英米文学科を統合し、文学部文学科を設置 第II部[夜間部]を廃止
2004	平成 16年	大崎キャンパスに総合学術情報センター竣工 大学院心理学研究科を設置
2011	平成 23年	心理学部に対人・社会心理学科を設置
2012	平成 24年	開校140周年 社会福祉学部人間福祉学科を子ども教育福祉学科に改称
2014	平成 26年	大崎キャンパスの名称を品川キャンパスに変更 法学部および法学研究科が2014年度入学者より品川キャンパスに履修校地変更
2017	平成 29年	熊谷キャンパス開設50周年
2021	令和 3年	データサイエンス学部(データサイエンス学科)を設置
2022	令和 4年	開校150周年

# 建学の精神と本学の使命

## ● 社会的ミッションと建学の精神

本学の淵源は1580年に開設された日蓮宗の教育機関・飯高檀林にまで遡り、校名は日蓮聖人の『立正安国論』に由来しています。その要諦は、「『正しき』を立て(=立正)、国や社会、人々の安寧・和平の実現のために尽くす(=安国)」ということにあります。これが本学の社会的ミッションであり、立正精神です。大学としての建学の精神は、第16代学長・石橋湛山の時代に次のとおり策定されました。

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願ひ人類に尽そう

「真実」「正義」「和平」という三つのキーワードは、上述の社会的ミッションを基底に据えて解釈すれば、教育研究活動上、客観的契機としての「真実」と主体的(人格的、社会的)要素としての「正義」を探究し、もって「和平」の実現を図るという、手段(前二者=立正)と目的(後者=安国)の関係にあることが分かります。そして、何のための教育研究かという、目的に当たるという意味で最も重要な「和平」とは、単に戦争の反意語ではないはずで、より積極的に、人々や社会が暴力、格差、不正、環境破壊などから免れ、人間・生物の多様な個性や価値を尊重し、地球市民・生態系の一部として互いにつながり、支え合い、相乗的・共創的に生かし生かされながら、心豊かで持続可能な状態にあることを指すと言っていいでしょう。本学は最高学府として自らに課された公共的・社会的な役目を以上のように自覚し、実践しています。

## ● 「モラリスト×エキスパート」

立正大学学園は、「『モラリスト×エキスパート』を育む。」を学園メッセージとして掲げています。この学園メッセージは、立正精神を現代に受け継ぎ、立正大学の建学の精神「真実・正義・和平」を実践するうえでの指針となるものです。「モラリスト×エキスパート」とは、「予測不可能な時代」とも言われる現代において、私たちが生きている／生かされているこの世界をより良いものにしていく、それを叶えるための資質・能力を備えた人物像です。具体的には、以下の6つの要素に表されます。

「モラリスト×エキスパート」を体現する人物像

- 自らの持ち味を知っている
- 積極的なチャレンジと好きの探求で自分の専門に出会うことができる
- 自分を律しながら、役割と能力を発揮できる場をつくることのできる
- 物事の背景やその本質に目を向け、慮(おもんばか)ることのできる
- 社会の課題をポジティブに変換する「新しい当たり前」を生み出せる
- 社会や人の喜びを自分の喜びにすることができる

羅針盤なき混沌とした時代だからこそ、社会への積極的なコミットメント(関わり合い)の中で、人の喜びや悲しみを受け止め、それらをつなぎ、活かしながら社会に貢献できる人材。そのような、単なる道徳心や倫理観以上の多面的な広がりの中身のある「モラリスト」と、一人ひとりが「これだ!」と探求したくなる専門分野。どちらがゼロでも成り立たない、「+」(たす)ではなく「×」(かける)ことで生まれる私たちが目指す人間性。立正大学は、学生一人ひとりの学びをしっかりと支え、そのための一歩を後押しします。そして、本学の学生・卒業生・教職員など、本学を構成する一人ひとりが「モラリスト×エキスパート」人材となることで、世の中の「和平」に貢献していきます。



## ● 立正人・石橋湛山

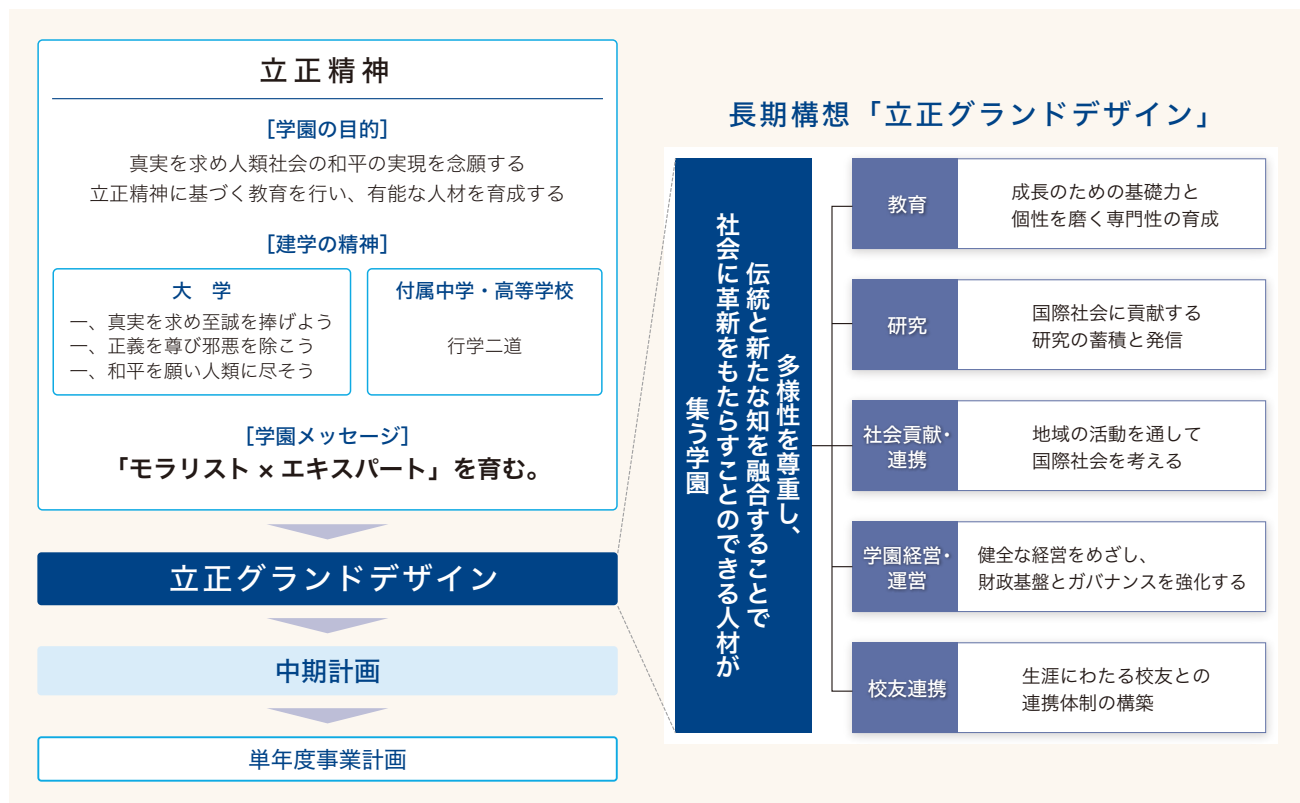
石橋湛山は、立正精神を生涯貫いた人物です。戦中戦後の狂瀾怒濤の時代にあっても、リアルで実証的な視点・データをもって、軍国主義、帝国主義を批判し、自由主義、民主主義、平和主義を唱え続けた言論人として知られています。戦後、「日本のケインズ」と称され、大蔵大臣、通商産業大臣を歴任後、第55代内閣総理大臣にもなる湛山は、1952年からの16年間、83歳まで本学の学長を務めました。本学での湛山は、大学の財政基盤を建て直し、総合大学への道を切り開きました。また、自らも教壇に立って金融論を講義しました。

決して単なる理想論に陥ることなく、不撓不屈の精神で思想・理論の社会的な実践を行ってきた石橋湛山は、戦後、立正大学の礎を築いた、文字どおりの立正人です。

第16代立正大学学長時代(1952～1968年)の石橋湛山

# 学園長期構想および中期計画

立正大学学園は、開校150周年を迎えた令和4(2022)年に、永続的に学園を発展させていくための指針となる長期構想「立正グランドデザイン」を策定しました。本構想では、本学園がこれまで培ってきた歴史や伝統と革新とが融合する、新たな学園の姿を示しています。



## 第2次中期計画および単年度事業計画

長期構想「立正グランドデザイン」を具現化していくための第1フェーズとして、5か年の行動計画である第2次中期計画(2023～2027年度)を策定しました。第2次中期計画では、以下の観点から39個の具体的なアクションプランを立案し、各年度策定する事業計画において具体化を図り確実な実行に結び付けています。

### [ 第2次中期計画 基本方針と5つのフレーム ]

基本方針：社会ニーズへの対応とオリジナリティの確立

#### 1 教育の質向上(大学・大学院・中高)

— 教学マネジメント体制の強化等を通じた学修者本位の教育へのより一層の転換

2 研究活動の活性化 — 本学園の特色を活かした異分野研究活動によるイノベーションの創出

3 社会貢献・連携 — 社会ニーズを捉えた活動の推進と教育活動への実装

4 学生受入・支援 — 多様な生徒・学生・教職員がお互いの個性を認めあうキャンパスづくり

5 経営基盤強化 — 教育研究活動の持続可能な発展と整備および学園改革を進めるための基盤強化

※長期構想および中期計画の詳細は本学公式ホームページ(下記URL)よりご覧ください。

[https://www.rissho.ac.jp/rissho\\_school/about\\_school/index.html](https://www.rissho.ac.jp/rissho_school/about_school/index.html)

# 内部質保証の実質化を目指した大学の取り組み

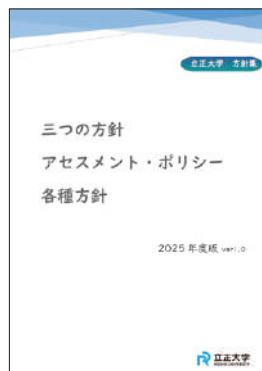
## ● 教学を中心とした 内部質保証体制の構築

本学では2024年度より、教育の質を継続的に高めるための内部質保証体制を全面的に見直し、「三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)」を基盤とした学修目標の確かな具現化を目指した新たな組織体制を整備しました。その中心的役割を担う組織として高等教育研究機構を設置し、大学レベルにおける教育目標や各種方針、教育成果について、アセスメントプランに則った体系的な点検・評価を実施しています。その評価結果は、中期計画や事業計画に著実に反映され、教育の改善サイクルに直接つながる仕組みを目指しています。加えて、高等教育研究機構内では教育課題や改善方策に関する議論を通して、自己点検・評価と大学としての意思決定が連動するように工夫されています。特定の基準で学部間の画一化を促すのではなく各学部の個性や強みを尊重し、優れた実践(グッドプラクティス)の共有と発展を目指している点が大きな特徴です。

各学部・研究科では、学位プログラムごとに教育目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを設定し、それに沿った教育プログラムを展開しています。また、点検・評価体制を整え、アセスメントプランに基づいて学修成果の評価・検証を行うことで、教育内容の適切性や改善すべき点を明確にしています。

授業担当者はシラバスに基づく授業運営を行い、学期ごとに実施される「授業アンケート」を通じて、学生の学修状況や授業に対する意見を収集しています。このアンケートは授業改善の重要な基盤であり、教員間での授業実践の共有や授業方法の工夫・改善にも広く活用されています。

また、内部質保証システムの有効性・機能性および妥当性を検証し、高等教育研究機構における教育研究活動の質保証を支援すること目的として、内部質保証システム検証委員会を設置し、大学全体としての質保証の充実を図っています。



『立正大学 方針集』

## ● 教育開発センターの役割と活動

高等教育研究機構の企画・運営を担う教育開発センター(以下、センター)では、「三つの方針」に基づく教育の実施と教育改革の促進を目的に、多様な課題に対応する取り組みを行っています。教学担当副学長をセンター長とし、各学部から選出された9名の教員に加え、学長室部長、教学部長、教育開発課長、学事課長など、教学の意思決定に関わるメンバーで構

成されており、センターは、主に以下の業務を担っています。

- (1) 「三つの方針」を中心とした教育・研究活動に係る各種の方針の策定と見直し、ならびに方針に基づく活動の推進支援
- (2) 教学IRを活用した学修成果の把握・可視化とそれに基づく教育内容・方法の改善支援
- (3) 教学マネジメントを支える基盤として必要なFDの実施、教学IRの体制整備と活用、その他必要な基盤整備
- (4) 内部質保証の基本方針の策定と見直し、ならびに方針に基づく体制整備および実施支援
- (5) 法令・大学基準を満たしかつ本学の特色を活かした点検項目および指標の開発支援
- (6) 全学教育の推進、企画および運営
- (7) 学部間の教育に係る調整
- (8) センター間の教育に係る調整
- (9) 大学間協定に基づく教育連携に関すること
- (10) センターの活動状況等に関する各種情報の公表

また、センターには複数の部会を設置し、各部会の担当する事項について重点的に検討し、センター運営委員会への報告を行っています。

### 教育開発部会

教育改革や自己点検・評価に関する主要な事項を扱い、大学全体の教育力向上に向けた方針や取り組みを検討します。

### 全学教育部会

キャリア教育、データサイエンス教育を中心に全学科目の企画・実施、また全学的に共通する教育内容や教育課題を取り扱い、学士課程教育の質向上を目指した取り組みを進めています。

### 教学IR部会

教育改善に資するデータ収集や分析を行い、客観的なエビデンスをもって質保証に取り組む基盤づくりを担当します。

### FD部会

全学FD研修会の企画・運営、FD News letterの発行などを通じて、教員の授業改善や教育力向上を支援し、学内でのFD活動の活性化に貢献しています。

センターは上記のような役割のもと、様々な活動を通して立正大学の教育改革を行っています。



# 学部・学科／大学院研究科

## 仏教学部

### 仏教学科／宗学科

仏教学部は、本学の建学の精神を直接的に継承する学部です。「仏教の知的体系と人間探求に関する教養および専門的知識を修得し、広く社会に貢献しうる人材を養成すること、およびそのために必要な教育研究を行うこと」を教育の目的としています。1・2年次における学問研究の基礎と仏教全般についての学修と、3・4年次にお

ける仏教学科(文化遺産・芸術コース／歴史・思想コース)・宗学科(日本宗教・文化コース／法華仏教コース)の専門的な学修を通じて、仏教の「智慧」とともに、現代社会を生きぬくための「人間力」を養います。

## 文学部

### 哲学科／史学科／社会学科

文学科(日本語日本文学専攻コース、英語英米文学専攻コース)

文学部の教育目標は、「文化を支え理解し、新たに創造する力」を備えた個人を育成し、「文化」に関わるさまざまな分野のエキスパートとして社会に貢献しうる人材を世に送り出すことです。各学科・専攻コースでは、専門的知識だけでなく幅広い教養をも身につけ、柔軟な思考力と応用力の育成を目指した教育をしています。必修科目である卒業論文の執筆を通じて、課題を設定して分析し、考察する能力も養われます。

### 大学院 文学研究科

仏教学専攻、英米文学専攻、社会学専攻、史学専攻、国文学専攻、哲学専攻を擁する本研究科は、1951年創設の長い伝統を有しつつ、時代の変化に対応した教育と研究を推進しています。いずれの専攻にも修士課程と博士後期課程があります。奨学金をはじめ、単位互換・長期履修・出版助成などの諸制度を整え、さらなる学びを求める人すべてに門戸を開いています。

## 経済学部

### 経済学科

経済学部の教育目的は、自ら課題を発見し、解決できる思考力・行動力を持った人材を育成することです。特に少人数教育を重視しており、1年次はクラス制を設け、2年次から4年次までは専門科目とゼミナールを通じて考える力を涵養しています。また、現役のジャーナリストを招いて行う授業や、学生自身で企業への取材を行うことを通じて、インターンや就職活動で実践的に使えるビジネススキルを学ぶ授業など、特色ある授業も開設しています。

### 大学院 経済学研究科

経済学研究科には、「経済システム研究コース」に加え、特に環境保全や資源エネルギー問題に焦点を当てた「環境システム研究コース」、地域経済の課題を国際的な視野の下に研究する「地域システム研究コース」の3コースがあり、理論科目とともに統計データに基づく実証分析の科目も充実させ、大学院生のさまざまな問題意識に応えることに努めています。また、留学生を積極的に受け入れるとともに、社会人教育にも力を入れています。

## 経営学部

### 経営学科

経営学部は、「心豊かな産業人の育成」を理念とし、多くの産業人を輩出してきました。50年以上の伝統を誇りますが、常に先取の精神を持ち、教育の革新に努めています。カリキュラムでは、理論教育にとどまらず、実務家による授業を設けるとともに、ゼミナールにおいては現代社会に対応した活動を展開し、「人間力」や「共創力」の養成を進めています。PCを全員に貸与し、スキル教育を行っているのも大きな特徴です。

### 大学院 経営学研究科

多様化する研究ニーズに応え、経営学研究科では2つのコースを設けています。「アカデミック・コース」では講義科目と研究指導(税理士志望者のための論文指導も含む)により、修士論文を作成します。また、社会人ニーズに対応した「ビジネス・ソリューションコース」では講義科目に加え、専門家と専任教員の複数体制による演習指導を通して、ビジネス現場での課題解決に向けた研究成果を実務指向的「研究成果報告書」にまとめます。

## 法学部

### 法学科

法学部は、法の成り立ち、仕組み、あり方を探求することによって、法的素養を有する指導的職業人の育成を目指しています。将来の志望に合わせて「特修」「ビジネス法」「社会公共」の3つのコースを設置。少人数制の教育を重視し、1年次はクラス制を設け、専門のゼミナールには2年次から卒業まで3年間参加することができます。また、資格試験や公務員試験などの受験対策指導にも力を注いでいます。

## 社会福祉学部

### 社会福祉学科／子ども教育福祉学科

社会福祉学部では、高度な福祉社会の実現と教育に寄与する人材を育成しています。社会福祉学科ではソーシャルワークコース、特別支援教育コース、社会デザインコースを開設しており、社会福祉士・精神保健福祉士(受験資格)、特別支援学校教諭の資格・免許の取得が可能です。子ども教育福祉学科では保育・幼児教育コース、初等教育コース、子ども心理コースを開設しており、教育・福祉・心理の学びを通し、子ども達への教育や援助の知識と実践力を養い、小学校教諭、幼稚園教諭の免許、保育士の資格の取得が可能です。

## 地球環境科学部

### 環境システム学科／地理学科

地球環境科学部には、理学系の環境システム学科と、長い伝統を誇る文理融合系の地理学科があります。ともに国内外のさまざまなフィールドでの環境問題・地域の諸課題を学修する実践的授業と、最新機器や豊富な地図を活用した少人数制授業を行っています。また、地理情報システム(GIS)やリモートセンシングなどコンピューターを用いる実習も特色の一つとし、所定の単位取得による測量士補などの国家資格の取得のほか、気象予報士や旅行業務取扱管理者などの受験指導も行っています。幅広い視野と高度な専門技術を身に付けた優秀な人材を輩出しています。

## 心理学部

### 臨床心理学科／対人・社会心理学科

2002年に創設された首都圏で最初の心理学部です。臨床心理学科では、カウンセリング等の心理的援助に関心のある学生が学び合う「場」を提供し、心の専門家を育成しています。対人・社会心理学科は、社会で生活している人の心理や行動が、周囲からどのような影響を受け、また影響を与えているのかを学ぶ、全国初の学科です。両学科とも2018年より公認心理師養成カリキュラムにも対応しています。

## データサイエンス学部

### データサイエンス学科

データサイエンス学部は、データサイエンスの様々な分野での実績を持つ教員による講義と、実際にデータを用いて事業を展開している企業等との連携による実践的な「文理融合型」カリキュラムで、データサイエンスを広く実社

### 大学院 法学研究科

法学研究科は、1994年に創設された昼夜開講制の大学院です。法学研究科の教育研究上の目的は、専門的職業人・公務員養成のための法学教育と、専門的職業人・公務員等へのリカレントのための法学教育を通して身につけた法律専門知識・法的推論能力を、リーガル・マインドに基づき、社会において適正に活用できる人材を養成することおよびそのために必要な教育研究を行うことです。

### 大学院 社会福祉学研究科

社会福祉学研究科では、「理論と実践の両立」を教育理念に掲げた教育課程を編成しています。修士課程では、社会福祉学専攻を設置し、「ゼミナール群」と「研究特論群」を、博士後期課程では、社会福祉学専攻を設置し、「研究指導科目群」と「特殊講義科目群」を配置しています。特に、社会人学生に対しては、研究と就業を往還できるリカレント教育に力を入れています。

### 大学院 地球環境科学研究科

さまざまな規模の環境問題に適切に対応するには、広い視野と深い専門知識、そして確かな技能が必要です。地球環境科学研究科はそうした人材の養成を目指した、地理空間システム学専攻と環境システム学専攻からなる文理融合型大学院です。両専攻とも博士前期(修士)・後期課程を有し、それぞれ4～5分野から構成され、「人間活動と地球環境」「フィールドサイエンス」といったキーワードを共有して地球社会への積極的な情報発信に努めています。

### 大学院 心理学研究科

心理学研究科は、修士課程3専攻(臨床心理学専攻、応用心理学専攻(2024年度以降の学生募集停止)、対人・社会心理学専攻)と、博士後期課程(心理学専攻)を擁しています。臨床心理学専攻は、臨床心理士、公認心理師の受験資格を担保し、応用心理学専攻は、認知・行動・教育におよぶ心理学的研究を行い、対人・社会心理学専攻は、人と社会の関わり合いの理論的・実証的研究を行っており、広く門戸を開いています。心理学専攻では、最新の専門的理論と実践的方法論の研究に努めています。

会に応用し、新たな価値を生み出す即戦力となるデータサイエンティストを養成しています。従来からの高等学校教諭一種免許状「情報」取得課程に加え中学校及び高等学校教諭一種免許状「数学」取得課程を開設しました。

# 研究推進・社会貢献についての取り組み

## ● 研究推進・社会貢献センター

立正大学における研究支援や地域連携に関する窓口として、地域・自治体や企業・団体の皆様との連携をサポートするため、2011年4月に発足しました。科学研究費助成事業(科研費)をはじめとする競争的資金の獲得および受託研究事業の受入、各研究・連携事業における外部と研究者との円滑な協力関係の維持、促進を目的として包括的な研究支援を行っています。

また、地域社会への開放的・知的な貢献に応えることも大学の使命であると考えことから、本学の知の資産である研究者を中心に地域連携も積極的にを行っています。

## ● 学内研究助成

### センター支援費

本学では、教育・研究活動に意欲的な研究者を支援するため、独自の支援制度「センター支援費」を設けています。支援内容は主に学内の異なる学部による共同研究、産学官連携のための研究、科研費に申請するための補助金、学生教育を伴った地域貢献に資する教育・研究などです。



### 研究成果公開促進費(国内)

本学における優れた研究を、学内外に広めることを目的として助成を行うものです。論文を学術雑誌に投稿するために必要な経費を助成する「学術論文投稿助成」と、研究成果を出版するために必要な経費を助成する「出版助成」の2種類から成っており、優れた研究成果の公的流通の促進を目指しています。

### 研究成果公開促進費(国際)

本学における優れた研究を、世界に発信することを目的として助成を行うものです。論文を国際学術誌に投稿するために必要な経費を助成する「学術論文投稿助成」と、研究成果を海外で出版するために必要な経費を助成する「海外での出版助成」の2種類から成っており、本学の研究者および大学院生の国際化を推進しています。



## ● 受託・共同研究

本学では、企業・自治体・他大学等のさまざまなニーズに応じて、連携事業、受託研究、共同研究を行っており、1年単位の調査・分析から、多年度にわたる大規模な研究開発など新たな知見の創出、課題解決に向けた取組を幅広く委託されています。例として、株式会社ニチイ学館及び国立大学法人東京学芸大学と三者で行っている共同研究(保育園向け「STEAM教育プログラム」の研究・開発)では、本学社会福祉学部・山田修平准教授が幼児教育の視点から参画し、プログラム案の作成などに取り組んでいます。また、データサイエンス学部・永田聡典准教授は、産学官連携による共同研究において熊谷市からの委託を受け、スポーツAIカメラで撮影した競技中の映像を取得・分析し、地域スポーツ団体の競技力向上に取り組まれました。このように企業・自治体・他大学等と連携し、または委託を受け、本学が有する知見やノウハウを活かして社会・地域に貢献するための窓口として研究推進・社会貢献センターでは各種サポートを行っています。



## ● 地域連携

本学では、教育と研究を中心とした伝統的な活動にとどまらず、地域社会への開放的・知的な貢献に応えることが大学の使命と考え、本学の知の資産である研究者を中心に地域連携を積極的に行っています。研究推進・社会貢献センターをはじめ、学部、学科において教育と研究の推進を図り、地域との連携を進めています。

### 行政との連携

本学ではキャンパス近隣の自治体を中心に連携協定を締結し、地域課題解決への協力やまちづくり施策への貢献を推進しています。

#### 〈主な連携協定締結自治体〉

東京都品川区、埼玉県熊谷市、埼玉県東松山市、埼玉県滑川町、埼玉県秩父市、千葉県鴨川市、千葉県匝瑳市、北海道東川町

#### ■熊谷市産学官連携まちづくりフォーラム

立正大学、熊谷市、熊谷商工会議所、くまがや市商工会の四者が締結した「産学官連携に関する基本協定書」の意思に基づいて、地域社会の発展と人材育成を目指す「協働によるまちづくり」の一環として開催しています。

## 生涯学習事業

#### ■デリバリーカレッジ

総合大学としての本学の特色を生かし、知的財産を広く社会に還元し地域の皆様に活用していただくために、本学から多岐にわたる分野の教員を各自治体に派遣して講座を開催しています。

#### ■市民大学

地域で行われる市民大学などに教員を講師として派遣し、地域の皆様の生涯学習に対するニーズに応えています。

#### ■公開講座

社会に開かれた学びの場を積極的に提供するために、大学および学部主催の公開講座を、品川、熊谷の両キャンパスで開催しています。例)しながわ学、立正オープンカレッジなど

#### ■子ども大学くまがや・なめがわ

子どもの学ぶ力や生きる力の向上および大学や教育委員会などの連携による地域の教育力の向上を目的に開催されています。



## 大学間連携

教育機関、大学等との連携も積極的に進めています。

#### ■大学間包括連携協定

清泉女子大学、埼玉県農業大学校と包括連携協定を締結し、施設相互利用や合同職員研修、共同研究などを実施しています。

#### ■埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)

地域の12大学・短期大学および自治体・企業で構成するプラットフォームに参画し、地域活性化を目的に大学間の連携を生かしたさまざまな取り組みを展開しています。

## 企業との連携

#### ■立正大学商品開発プロジェクト

地元企業と協働して、立正大学オリジナル商品の開発を行っています。学生の発想や得意技能と企業の商品力を掛け合わせ、これまで『オリジナル日本酒』や『オリジナルお茶』などを制作しました。プロジェクトを通して、学生が課題の発見・解決方法を主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の実現と、地域社会との連携深化を目指しています。

#### ■一般社団法人埼玉県中小企業診断協会との連携

本学は、2024年2月に埼玉県内の中小企業や事業所に地域密着型の支援活動をしている、(一社)埼玉県中小企業診断協会と包括連携協定を締結しました。450名を超える中小企業診断士が所属する当協会を申請事業者とし、経済産業省の令和5年度「高等教育機関における共同講座創造支援事業」に採択され、中小企業診断士向け講座を実施しました(共同講座の名称:DX人材・支援人材育成講座)。学生のみならず社会人向けの講座も充実させ、企業人を育成する事業を展開していきます。

## ● ボランティア活動推進センター

当センターは通称ボラセンと呼ばれており、ボランティア活動の紹介やサポート、講座等を開催し、ボランティア活動のきっかけづくりを行っています。

ボラセン主催のボランティアプログラムもあり、誰もが利用・参加しやすいセンターを目指しています。



立正大学熊谷キャンパス17号館1階

TEL/FAX 048-539-1386

EMAIL v-cen@ris.ac.jp

OPEN 平日10時～17時(13時～14時閉室)

※長期休暇中は週3日の開室



# グローバル化への対応

## ● 海外での教育・研究活動の展開 (中央アジア：ウズベキスタン)

2014年度から学園ブランディング事業として「立正大学ウズベキスタン学術調査隊」を結成し、学術貢献と文化交流の促進に努めてきました。仏教学部・文学部・地球環境科学部の教員から構成されるメンバーは、現地機関と協力してウズベキスタン南部に所在する1～3世紀の仏教遺跡(カラテペ、ズルマラ)の調査をおこなってきたほか、中央アジアの特徴ある地理・宗教・食べ物に着目して、地理学やツーリズムの観点からも研究を展開中です。

最近では、2023年度にタシケント国立東洋学大学とツーリズムに関する研究を軸として協定を結び、2024年度には地球環境科学部所属の学部生たちが、教員の指導のもと現地調査活動を展開しました。また2024年度に科学アカデミー芸術学研究所と、前2～4世紀の巨大都市遺跡ガルヴェルジンに関する発掘調査協定を結び、2025年度は遺跡の3Dモデルの構築、自然科学的方法による年代測定を実施したほか、タシケント国立東洋学大学と国際シンポジウムを開催しました。

ウズベキスタン共和国はイスラム教徒が大半をしめ、ウズベク語とロシア語が主要言語であることから、日本では印象が薄くなりがちですが、異文化や自然に触れることで自国や世界の現状が、よりはっきりと認識できるものです。現地の古代仏教遺跡が取り持つ縁をいかして、今後も立正大学らしい海外との学術・文化交流を展開していきます。



仏教学部研修によるズルマラ遺跡訪問



国際シンポジウム『持続可能な観光の象徴としてのシルクロード』開催

## ● 国際交流の推進(国際交流センター)

本学では、グローバル社会で活躍できる国際感覚に優れた学生の養成を目指し、国内外の学生に向けたさまざまな取り組みに力を入れています。

各種留学・研修制度や語学講座、語学検定試験受験料補助制度を設け、学生の海外派遣・語学力向上のサポートを行っています。また、年間約190名の外国人留学生を受け入れており、授業料減免制度や留学生のための日本語教室などの支援を行っています。さらに、留学生との交流を目的とした国際交流会やピア・サポート制度等、さまざまな国際交流の機会を提供しています。



短期海外研修(語学研修：カナダ)

# 学生生活支援

## ●奨学金制度

本学学生の修学を支えるため、奨学金制度の充実に努めています。

### 大学独自の奨学金制度

- ①立正大学チャレンジ奨学生〈給付〉<sup>※1</sup>
- ②立正大学特別奨学生〈給付〉<sup>※1</sup>
- ③立正未来エール奨学金〈給付〉<sup>※1</sup>
- ④立正大学学部橋経済支援奨学生〈給付〉
- ⑤立正大学セカンドキャリア支援奨学生〈給付〉
- ⑥立正大学校友会成績優秀奨学生〈給付〉
- ⑦立正大学学業継続支援奨学生〈減免〉
- ⑧立正大学大学院学業継続支援奨学生〈給付〉
- ⑨立正大学大学院橋経済支援奨学生〈給付〉<sup>※2</sup>
- ⑩立正大学大学院研究科別奨学生〈給付〉

※1 受験生対象

※2 大学院在籍生および入学予定者対象

### その他の奨学金制度

- ①日本学生支援機構奨学金〈貸与〉
- ②国の修学支援新制度〈給付+減免〉<sup>※</sup>

※ 多子世帯への支援も含む

その他にも留学関連のものや、地方公共団体、民間財団等が実施する奨学金があります。

### 立正大学の奨学金制度

立正大学の奨学金はすべて **給付型**

経済支援	成績優秀者支援
	
立正未来エール奨学金 学部橋経済支援奨学生 セカンドキャリア支援奨学生 学業継続支援奨学生	チャレンジ奨学生 特別奨学生 (TOP150) 校友会成績優秀奨学生

## ●在学生へのケア

快適な学生生活を送るために、学生生活課、校医、保健室、学生カウンセリングルーム、障害学生支援室、キャリアサポートセンター、学部が連携し、生活相談、心身の健康相談、キャンパス・ハラスメントの相談にあたっています。また、在学生の心と身体の健康問題に常時応えることができるように外部の専門業者と連携し、電話による健康相談を実施しています。

## 学生カウンセリングルーム

学生カウンセリングルームは、学生が大学生活を送っていく中で出会うさまざまな問題について相談できる場所です。専門のカウンセラーがお話を聞きながら一緒に考えて、問題解決のお手伝いをします。

## 障害学生支援室

障害学生支援室は、心理や福祉の専門職であるコーディネーターが障害のある学生に対して修学支援の相談に応じ、学部・研究科や関係部署と連携して支援にあたっています。事前の資料提供やノートテイクなどの授業時の支援、補助具の持ち込み許可や試験時間の延長などの定期試験時の配慮といった、学生の障害の状況にあわせた合理的配慮の支援の提供に関する調整を行っています。

## ●課外活動

本学では課外活動を正課外教育として、社会性・人間性を涵養する重要な活動と位置づけています。課外活動・サークル団体数は100近くあり、学術、文化、スポーツ、そして大学祭を運営する実行委員会など、さまざまな団体が趣味や目的を共有する仲間と充実した学生生活を送っています。

### 課外活動の活性化

学生による、さらなる主体的課外活動の活性化を図るため、課外活動で顕著な成績を収め、課外活動の振興・発展に貢献した団体・個人を顕彰しています。



# 学術情報セクター(図書館・博物館・文書館)

## ● 図書館

品川と熊谷の両キャンパスに設置された図書館は、約103万冊の図書と1万タイトルを超える学術雑誌のほか、電子資料やデータベース、視聴覚資料などを所蔵し、なかには「田中啓爾文庫」や「河口慧海文庫」など、特色ある貴重な資料も所蔵しています。また蔵書検索OPACより一歩進んだ蔵書検索システム「Riscovey」では、立正大学で所蔵する図書・雑誌・契約データベースに加え、国内外の学術情報を網羅的にまとめて検索することができます。さらに、本学の学術研究・教育成果を「立正大学学術機関リポジトリ」で広く公開し、社会に還元するよう努めています。また、両キャンパスには学生・教員・職員の主体的な学び・交流・発信の場として、「ラーニングコモンズ」を設置し、専門スタッフによるサポートデスクや利用案内の実施など、学修・研究・教育支援の役割を担っています。

### 古書資料館

2014年に品川キャンパスに開館した古書資料館は、江戸時代の和古書を中心に、特殊資料(卷子本・折本・函物等)、洋古書など4万冊を超える資料を所蔵する古書の専門図書館です。一般的な図書や雑誌とは異なる利用上の取り決めがありますが、開架室のすべての古書を書棚から“自分で”取り出し、閲覧することができます。また、古書資料館専門員が古書の利用相談を受け付けています。



奈良絵本『竹取物語』(立正大学古書資料館所蔵)

## ● 博物館

博物館は、2002年、本学開校130周年を記念し、創立以来学内の各所に分散所蔵されていた諸資(史料)を一括保管・一括公開することを目的に、総合博物館として熊谷キャンパス内に設置されました。「史学の立正大学」の伝統を象徴する博物館では、歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料を収集・保管し、これらの調査研究を行って「博物館年報」「万吉だより」、展示図録などを刊行しています。館内では縄文時代の土器類をはじめ、日本のみならず海外の遺跡からの出土資料を体系的に展示しています。また、博物館学芸員資格取得を目指す学生の実習施設として活用するほか、移動展示・講演会などの活動も行い、学内外の教育・研究に寄与しています。



### 主な展示

- **ネパール・ティラウラコット遺跡出土資料**  
立正大学インド・ネパール仏蹟調査団により発掘された資料。
- **吉田格コレクション**  
縄文時代研究の著名な学者・吉田格(1941年本学卒)によって寄贈された資料(縄文土器、骨角器、伊藤圭介蒐集石器など)。
- **撫石庵コレクション**  
眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア各地の梵音具(鐘・鐃など)を中心とするコレクション。
- **樺太出土資料**  
故・久保常晴立正大学名誉教授が樺太の地を調査した際に出土した資料。
- **熊谷キャンパス内出土資料**  
施設新築に際し、文化財保護法に基づく発掘調査により出土した資料。特に、縄文時代早期の土器群は貴重な資料として注目されている。
- **古代窯業遺跡出土の須恵器と瓦**  
本学考古学研究室が全国各地で実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料。

## ● 文書館

文書館は、2024年、史料編纂室と石橋湛山研究センターを統合し開設しました。史料編纂室は、大学の貴重な記録を残すべく2014年4月に開設され、資料の調査・収集・整理・保存を行うとともに、大学史編纂事業に取り組んできました。一方の石橋湛山研究センターは、第16代学長石橋湛山に関する文献・資料・情報を収集するとともに、石橋湛山に関する研究プロジェクトを企画・実践し、その成果を公表してきました。文書館は、両機関を引継ぎ、立正大学学園の歴史および石橋湛山を含む関係者の事績を調査研究し、その成果を本学の発展に資することを目的にしています。

### 展示施設

文書館では、大学史への興味関心を高める活動の一環として常設・企画展示を実施しています。常設・企画展示は、150周年記念館内の「立正大学ロータスギャラリー-B(13号館地下1階)」にてどなたでもご覧いただけます。



### 主な企画展示

- **写真で見る文学部100年のあゆみ**  
文学部創設100周年を迎えた2024年に、立正大学文学部主催・文書館協力にて開催しました。
- **150周年記念写真展**  
150周年を迎えた2022年に、「入学式・卒業式」「戦時下の立正大学」といったテーマを設け、7会期に亘って開催しました。

# 進路・就職支援

キャリアサポートセンターでは、「キャリア形成支援」「就職活動支援」「資格取得支援」を3つの柱とし、学生が卒業後の社会生活や職業生活を行う上で基盤となる知識や技能を、より効果的に習得できる体系的な支援を行っています。1年生から段階的かつ継続的に多彩なプログラムに参加することができます。



品川キャリアサポートセンター



熊谷キャリアサポートセンター

## ● キャリア支援の3つの柱

### キャリア形成支援

自分の将来のライフキャリアを考えながら自らキャリアデザインを設計する力を身につける科目を開設しています。

### 就職活動支援

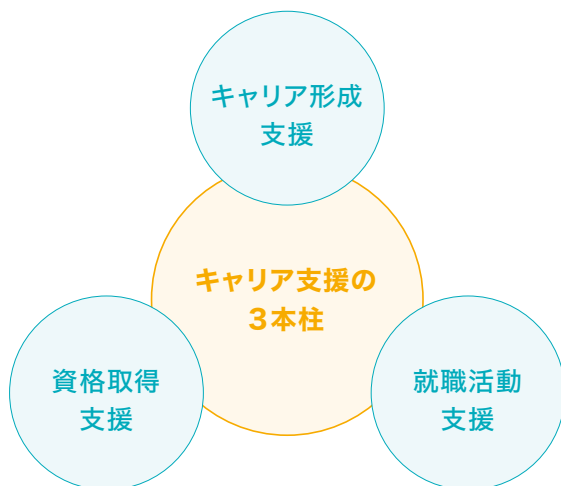
就職活動に向け、目的に合わせた多彩なプログラムを行っています。「今すべきこと・準備」を着実に進めることができます。また、社会で活躍をされている採用担当者や公務員の方々にもご協力をいただき、求められる人物像等も学ぶことができます。

〈主なプログラム〉

- 就職ガイダンス
- キャリアアワー
- 学内合同企業説明会
- 面接対策セミナー

### 資格取得支援

大学生としての基礎学力・専門知識に加え、社会で必要とされるスキルを身につけることができる各種資格対策講座を開講しています。学外で受講するよりも低額な費用で受講することができます。また、公務員受験に向けた採用試験対策講座も開講しています。



学生が卒業後の社会生活や職業生活を行う上で基盤となる知識や技能を、より効果的に習得できる体系的な支援を行っています。

## ● キャリア相談(個別進路相談)

進路・就職に関わるあらゆる内容に対し、学年を問わず1年次より常駐している専門のキャリアカウンセラーに相談することができます。卒業後の将来に向けた漠然とした不安はもちろん、履歴書・エントリーシートの添削や面接対策まで学生一人ひとりに対し、きめ細やかな支援をしています。



## ● キャリア実習[大学提携型就業体験]・インターンシップ

大学と企業・団体で提携した実習を行う授業として2・3年生対象の「キャリア実習[大学提携型就業体験]」、3年生対象の「インターンシップ」を開講しています。

事前・事後授業、夏期休業期間の就業体験を通じて、将来の進路について自らの適性・能力を考えながら職業観を育成することを目的としています。



# 課外活動団体と強化クラブ

本学には約100団体の課外活動団体があり、体育会、文化団体、学術研究団体、スポーツ活動団体等、バラエティに富んでいます。そのうち硬式野球部、ラグビー部、サッカー部を強化クラブとして指定し、文武両道の精神の下、競技活動と学業の両立に努め、目標達成に邁進しています。

## ● 硬式野球部



硬式野球部は1949年に発足後、64年に「戦国東都」といわれる大学野球屈指の東都大学野球連盟に正式に加盟致しました。2018年には9年ぶりとなる1部リーグ優勝、明治神宮野球大会優勝を果たし、再び大学日本一の栄光を手に入れました。未だ成し遂げられていない全日本選手権大会で優勝し、大学日本一となることを目標に掲げ日々練習に取り組んでいます。

## ● ラグビー部



ラグビー部は1965年に愛好会として発足、86年に強化クラブに認定され、2004年、関東大学リーグにて初の1部昇格を成し遂げました。その後、2部に降格しましたが、2021年に1部復帰を果たし、2026年度は創部以来初の5期連続のシーズンとなります。次なる目標「全国大学ラグビーフットボール選手権大会出場」を目指して厳しい練習に臨んでいます。女子は、大学日本一を目指して練習に励んでいます。将来は日本代表として世界大会、ワールドカップでの活躍が期待されます。

## ● サッカー部



サッカー部は1975年に強化クラブとして認定され、「社会で活躍できる人材を輩出する」ことをモットーに活動しています。日々の練習やプロチームとの強化試合、人材育成の面でさまざまな取り組みを行い、年々着実に力をつけています。2019年、悲願であった全国大会である総理大臣杯、全日本大学サッカー選手権大会出場を果たし、共に全国ベスト8という記録を立正史に刻みました。

## ● 令和7年度 課外活動実績

### 体育会陸上競技部 駅伝部門

第102回 東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 32位



### 体育会拳法部

第1回 全日本学生拳法新人戦大会 優勝  
第36回 日本拳法東日本総合団体選手権大会  
東日本大学新人戦 3位 敢闘賞1名受賞

### 体育会射撃部

2025年度 全日本学生スポーツ射撃選手権大会  
男子団体 女子団体出場 個人6名出場

### 体育会柔道部

2025年度 全日本学生柔道体重別選手権 男子1名出場

### 体育会水泳部

第101回 日本学生選手権水泳競技大会 1名出場

### 体育会排球部

ビーチバレーボールNEXT2025 JVA第7回 全日本ビーチバレーボールU-23選抜優勝大会 決勝トーナメント出場  
アクティオ杯ビーチバレージャパンカレッジ 第37回 全日本ビーチバレーボール選手権大会 決勝トーナメント出場

# 付属校・準付属校

## 【付属校】 立正大学付属立正中学校・高等学校

立正大学付属立正中学校・高等学校は1904年に日蓮宗大学林中等科として現品川区大崎の地に誕生し、2013年に大田区西馬込の地で新たなスタートを切りました。毎年1500名近い中高生が、建学の精神や進路教育に基づいたさまざまな行事、キャリア教育などを通じて、社会で活躍できる人間形成に日々勤しんでおります。また付属校の利点を生かした高大連携では、大学講義聴講制度や出張授業、教職員によるガイダンスなどを行い、生徒が大学を身近に感じ、その存在意義や必要性の理解が深まるよう努めております。そのため、卒業生の約9割が4年制の大学に進学しており、その多くが本学に進学しています。

〒143-8557 東京都大田区西馬込1-5-1 TEL 03-6303-7683 URL [www.rissho-hs.ac.jp/](http://www.rissho-hs.ac.jp/)



## 【準付属校】 学校法人淞南学園 立正大学淞南高等学校

本校は、2001年に準付属校となり、本年で24年目を迎えます。2021年、創立60周年を機に、本校はスクールミッションを「バランス感覚のあるリーダーの育成」へと刷新しました。独自の教育プログラムであるモラリストデザイン・アスリートデザインにより、生徒一人ひとりが「なりたい自分」に向かって挑戦できる力を育てています。近年は女子バスケットボール部の創部や通信制課程の開設など、学びの選択肢が広がっています。通信制では多様なライフスタイルに対応し、一人ひとりの夢を柔軟にサポートします。通信制開設に伴い作成した新ロゴに込めた3つの「S」は、本校の教育理念を象徴。淞南はこれからも、生徒の挑戦と成長を支える学校であり続けます。

〒690-8517 島根県松江市大庭町1794-2 TEL 0852-21-9634 URL [www.shonangakuen-h.ed.jp](http://www.shonangakuen-h.ed.jp)



# 立正大学校友会

立正大学校友会は学長が会長となり、在学生・在学生保護者・卒業生・現元教職員を会員とし、同窓会・橘会(保護者の会)・郵政会等各種団体が構成団体として所属しています。校友会として、学生支援・卒業生支援、各種親睦行事や構成団体支援、大学学園振興賛助などの事業を通じ、卒業生と在学生ならびに在学生保護者の方が交流できる機会を多く設け、大学発展のために貢献してまいります。

## ● 学生支援事業

校友会として下記学生支援を行なっています。成績優秀奨学生、入学・卒業記念品贈呈、課外活動助成・課外活動特別助成、海外インターンシップ・ボランティア活動支援、英会話ラウンジ運営支援、震災・特別事情等による困窮学生向け支援、その他在学生に関する各種支援、校友の集い・ホームカミングデー開催、保護者向け相談会(保護者懇談会)



グッズ ※状況により内容は変更します。

## ● 情報発信について

校友会ホームページ、SNS(Instagram・LINE等)の活用ならびに校友会報・学園新聞で大学の近況や在学生・卒業生の活動や活躍、各種団体の活動、行事等をお伝えします。在学生・在学生保護者・卒業生等の交流の場として活用いただけるよう充実しております。

校友会ホームページでは、校友会イベント、校友の皆さまの活躍等、情報を随時発信しています。



ホームカミングデー：同窓会物産展の様子

## キャンパス案内



### 品川キャンパス

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

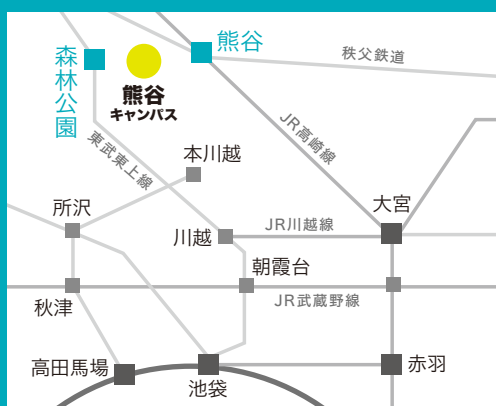
#### Access

大崎駅、五反田駅から徒歩5分

- 大崎駅 [JR山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線]
- 五反田駅 [JR山手線、都営地下鉄浅草線]

大崎広小路駅 [東急池上線] から徒歩1分

不動前駅 [東急目黒線] から徒歩13分



### 熊谷キャンパス

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

#### Access (在学学生はバス料金無料)

熊谷駅よりバス10分

- 熊谷駅 [JR高崎線、湘南新宿ライン、新幹線、秩父鉄道]
- 南口よりバス「立正大学」行  
または「森林公園駅」行、「立正大学」下車

森林公園駅よりバス12分

- 森林公園駅 [東武東上線]
- 北口よりバス「立正大学」行  
または「熊谷駅南口」行、「立正大学」下車

## お問い合わせ

### ■経営企画部広報課

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

TEL 03(3492)5250 FAX 03(3493)9068

発行元

立正大学 経営企画部広報課

公式WEB

[www.ris.ac.jp](http://www.ris.ac.jp)